

分別をすることは先進的なこと。 これからの時代、分別への意識は必ず高まってくると思います。

4月の4月から、一般家庭から排出される可燃ごみは寄居町にあるオリックス資源循環㈱の乾式メタン発酵施設で処理しています。この施設は「焼却しない」処理方法で環境にやさしい処理をしており、そのうえ処理過程で発生するバイオガスを利用して発電を行っています。この取り組みは先進的な取り組みだと思っています。

私が勤務している小川地区衛生組合は、管内の町村から排出されたごみを適切に処理、リサイクル、資源化を図るためにいろいろな調整をしています。もちろん、私たちの運営費は各町村の負担金によってまかなわれています。

分別についてさまざまな意見を聞きます。分別をしなれば楽だと思うかもしれませんが、環境に配慮していかななくてはならない今の時代、細か

な分別をしていない自治体も、今後は必ず分別をしていく流れになっていくと思います。

可燃ごみの中には、資源物（特に雑がみ）をごみとして排出している状況が見受けられます。更にはプラスチック類や缶やびんが混ざって排出されるケースもありますね。もう一度、分別方法を町が発行する「ごみ・資源分別カレンダー」などを確認し、適切なごみの分別に協力をお願いしたいです。

ときがわ町は県内でもごみの減量化を積極的に取り組んでいる自治体です。ごみに関心を持つことは、一番身近なSDGsの取り組みだと思っています。皆さんがごみを出すときには、ごみの減量と分別の意識を持ち続けることが大切です。

小川地区衛生組合 大嶋英人さん



可燃ごみを減らすことで・・・

- ☑ 日々のごみ出しが楽になる
- ☑ 町が支払うお金が減る
- ☑ 資源が増えれば町のお金になる
- ☑ 持続可能な世界に寄与する (SDGs)

出せばお金になるごみ!?

一方、毎週水曜日の資源回収の日に収集される、アルミ缶・紙類・衣類などは、重さで町のお金（収入）になります。これを分別せずに可燃ごみに出す

重さが減れば負担金が減り、使われる税金が減ることになります。令和4年度の負担金は、約1億6千万円。それだけの額を可燃ごみは、その重さのうち約8割を占めています。また、可燃ごみは、ごみ出しの時に一番重いですよ。世帯の人数で重さは変わりますが、単純計算で、一人一回あたり約1.6kg×世帯の人数分の重さがかかることとなります。それが週に2回もあれば、ごみ出しが重労働になっている方もいるのではないのでしょうか。

可燃ごみを分別していないと、ごみ収集の現場も大変な思いをします。ごみには収集業者、中継する組合、処理業者と数多くの人や機械が関わっています。金属類や有害ごみを可燃ごみにするなんてもってのほか。それは、処理施設を破壊する行為のようなものなのです。つまり、一番「効果が出やすく」「取り組みやすく」「みんなの負担が減り」「まずは分別のルールを守るだけでできる」のが、可燃ごみの減量なのです。

そんな可燃ごみの減量を、徹底的に行った地区があります。実施した方の中には、週に2回の可燃ごみのごみ出しが1回で済むようになった方も。8ページからは、その地区の取り組みをご紹介します。

ごみの減量は分別から

と、お金をかけて処理されることになりません。これはとてももったいないことですよ。

ごみ収集の現場から。

西部地域（旧都幾川村地域）では、一部例外がありますが、同じ集積所に全ての種類のごみが出る地域です。きれいな集積所にはいつも感謝していますが、中には分別されていない集積所もあります。そういうところは動物に荒らされることもあります。ごみが多くなると、収集に時間がかかるようになるし、重いものが多いと、単純に作業が大変です。まずはちゃんと分別してくれると助かります。黒い袋や米袋など、中が見えない袋はやめてほしいですね。また、とげや串などの尖っているものがあるとケガをしてしまうので、せめて袋に書いておいてください。



西部地域の可燃ごみ収集業者
新埼玉環境センター㈱
福島麻美さん

東部地域（旧玉川村地域）では、「可燃ごみと資源プラ」の集積所と「それ以外の不燃ごみ」の集積所がほぼ別の地域です。人目に付きやすい集積所や、当番の方が立っている集積所、防犯カメラのある集積所は基本的にすごくきれい。分別もちゃんとルールが守られています。分別されていないシールを貼るのは、毎回1～2個で済んでいます。集積所には、そこに住んでいる人たちの人がらが現れます。移住される方や観光に来る方たちが見ても、きれいなほうが、きっといいですよ。会社も近隣のごみ拾いなど積極的に取り組んでいます。



東部地域の可燃ごみ収集業者 ㈱滑川環境保全
小田宗晴さん(左)、岡野直輝さん(中央)、鴻野年章さん(右)